

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520711

研究課題名(和文) 越境する文化と移民—海外における中国伝統芸能・音楽の伝播と変容に関する比較研究

研究課題名(英文) Transnational Migration and Culture: A Comparative Study on the Dissemination and Changes of Traditional Chinese Music and Performing Arts among Chinese Overseas

研究代表者

王 維 (WANG WEI)

香川大学・経済学部・教授

研究者番号：10322546

研究成果の概要(和文)：報告者はこれまでの研究を踏まえた上、比較研究として、①ロンドンのチャイナタウン及びチャイナコミュニティにおける文化行事などについて研究調査を行った。1980年代より完備されたチャイナタウンは華人にとって情報とビジネスの集中地であり、ロンドンの観光名所である。春節祭は移民が地域人と交流するための祝祭であり、政府間の文化交流の慣例行事となり、そこから中国の国際的な地位は移民社会に与える影響が伺える。②日本華僑のネットワーク及び新移民による新たに伝播された音楽についての研究調査及びその研究成果である。

研究成果の概要(英文)：Based on studies conducted over the past decade, as for a comparative study, (1)A fieldwork research has been conducted on the cultural events in the Chinese communities and Chinatown in London. The Chinatown has been reconstructed since the middle of 1980's and become the centre of information and business for Chinese immigrants as well as a tourist attraction in London. The New Year celebration here is a festival for Chinese immigrants to interact with local people, has become a big regular event of cultural exchange between the governments. It shows that a significant impact brought about by the China's rise to the ethnic Chinese community in London. (2)As for studies on Chinese culture network, Chinese societies in Kyusyu has been examined, an analysis of the new institution will not only help forge a better understanding of the Chinese in Japan, but also shed new lights for a theorization of ethnic Chinese communities. In addition, I have studied the spread of music by the new immigrants in Japan from the perspective of cultural transmission and transformations in the context of globalization, aiming at to provide a new theoretical analysis model for the global cultural movement.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：海外における中国系移民社会と文化研究

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗史

キーワード：越境する移民、文化・音楽伝播、芸能・祭祀、華人コミュニティ、ロンドンチャイナタウン、ネットワーク、中国の台頭、観光開発

1. 研究開始当初の背景

ポスト冷戦後、世界のグローバル化とボーダレス化によって、大規模の国境を越える移民の波を巻き起こした。こうした越境する移民の流れの中に、ヒト（移民）や、物（商品貿易など）などの移動だけではなく、これまであまり注目されなかった非物質文化の移動も見られ、中でも特に本研究の主要対象となる伝統文化—民族芸能・音楽なども含まれる。

移民の中でも、中国人移民の数及び移住先での活動に、特に国際社会と学術界の注目が集まっている。こうした大規模の国境を越える移民の活動につれて、多くの中国伝統芸能や音楽が異なる中国移民のネットワークを伴って、海外の各地へ伝えている。これらの芸能や音楽は移住先で、当該国や地域の文化と交流し融合しながら、変化・変容するが、中には政治的、文化的、経済的に利用され、まったく新しい芸能と音楽となる部分もある。越境する中国移民のネットワークの役割、そして伝統文化が移民社会での役割を明らかにするためには、経済、歴史、政治の分野における研究以外に、文化の分野、特に各領域に重要視されていない越境する伝統文化の受容・変容という新しい視点からの研究も必要だと考えられる。

研究代表者はこれまで華僑社会における伝統文化特に祭祀・芸能・音楽に焦点を当てて、華僑の文化・社会のダイナミズムを研究してきた。祭祀と芸能の伝承が華僑の出身地、移住の形態、移住先のコミュニティ形成、及びその社会への定着・社会化、本土との関係、華僑のネットワーク、地域活性化及び観光開発、華僑の歴史と文化受容の土壌などの要因と関係していることを明らかにした。そして、これまでの研究を踏まえた上で、比較研究として、北米アメリカとカナダにおけるチャイナタウン以外に、アメリカやカナダ、東ヨーロッパのチェコ、南アフリカ及び日本の中国人新移民のコミュニティについての現地調査も実施した。これによって、現在世界各地における華僑華人社会の特徴が明確化になり、海外華人社会における伝統文化の再編に中国社会的、政治的、経済的変動の影響、またグローバル化における国境を越えた華僑華人のネットワークの役割が非常に重要であることを認識した。一方、これまでの調査は主に老華僑社会を対象としたものが多く、新移民に関する調査が不十分であることも認識した。こうした研究や認識及び問題点を踏まえた上、本研究の着想に至ったのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現地調査及び文献調査の上で、国境を越えた中国伝統文化特に芸能・音楽が、移民によって新たに異なる国と地域での伝播・受容について研究を行い、新しい文化理論の視点から変動する中国社会と海外華人社会を考察することである。

中国の改革開放政策が実施されて以来、すでに30年以上を経ている。この30数年間において、海外に移住している新移民が現在世界のいたるところに見られる。かれらによって活発的に経済的活動だけでなく、文化的な活動も盛んに行われている。中でも新たな中国伝統文化特に芸能や音楽の伝播活動が注目されるようになってきている。移民の主要な移住地である北米では、各地で中国人による芸能と音楽グループの活躍が見られるし、当該地のチャイナタウンにおける伝統祭祀にも重要な芸能の担い手となっている。そして、中国移民の伝統的な移住地である東南アジアの各国に分布している閩南人による福建省伝統音楽—南音のネットワークは、故郷の発展に経済的、政治的かつ文化的な役割を果たしている。とくに、近年日本における中国新移民による民族楽器二胡の伝承は、移住地である日本人の社会に広げ、越境する文化の伝播と変容の1つモデルとして捉えられる。こうした文化伝承の現象からも、越境する文化が移民の活動やそのネットワークと密接に関連することを伺うことができよう。

しかし、こうした新たな中国伝統文化特に芸能や音楽の伝承は一体どのように行われてきたのか、これらの伝統文化が海外でどのように伝播し発展しているのか、そしてそれはこれまで行われてきた華僑華人社会における伝統文化の創出活動にどのような関係をし、どのような役割を果たしているのか、そして、こうした国境を越えた伝統文化の伝承と変容過程において、海外の華僑華人はいかに芸能や音楽を通してエスニシティとアイデンティティを維持し再編しているのか、また、伝統芸能や音楽が海外での伝播と変容が、移民の出身地、移住形態、移住国における地域社会文化活動の参与、移民と出身地との紐帯などとの関係はどのようなものなのか、中国社会の変動が海外華僑華人社会に如何なる影響を与えているのか、さらに国境を越える移民のネットワークの形成と役割、伝統芸能と音楽が地域文化の振興や観光資源の開発における役割は一体どういうものであるか、などの一連の問題について、より具

体的かつ精密な調査や研究をすることによって、明らかにすることができよう。

3. 研究の方法

本研究ではこれまでの研究を踏まえた上で、主に下記のような現地調査と文献調査を行ってきた。(1) 2010年イギリスに一年間滞在することによって、ロンドンのチャイナタウン、チャイニーズコミュニティについての文献調査、特に口述歴史を中心に聞き取り調査、それと同時にチャイナタウンにおける春節行事についての現地調査を行った。チャイナタウン及びチャイニーズコミュニティは最初19世紀にロンドンの東部にあるレイモンストリートの周辺に形成していたが、後に戦争の破壊や戦後中国系移民の増加によって徐々に西へ移り、やがて市の中心部にあるソーホー地域に根を下ろした。2004年以来、ロンドンにいる中国系移民は大幅に増加し、およそ8万以上達しているが、イギリス中国系移民の約3分の1を占めている。ソーホー地域は1950年代以来華人が集まり活動する主要な場所となっており、この地域にレストランだけではなく、スーパーマーケット、教会、図書館、旅行社、保健所など、様々なサービスや商業機関が揃っている。またロンドン市内の各地にあるチャイニーズ・コミュニティ・センターは中国系コミュニティの人口構成の変化と、中国系移民は社会的サービスに接近するための援助を必要としていることを認知したイギリス政府側のアプローチによって、1980年代初めから政府から補助金を得て設立されたものであるが、現在中国系移民の日常生活に最も入り込んでいる。調査は主にチャイナタウンが発展する経緯及びチャイナタウンのイベント特に春節祭に焦点を当て、日本やアメリカ、カナダのチャイナタウンと比較しながら、ロンドンチャイナタウンの特徴、そして政府間の関係によってイギリスのチャイニーズコミュニティにどのような影響を与えたかなどを見出すことを試みた。

(2) 日本華僑華人についての継続調査として、九州や函館及び長崎華僑社会のネットワークについて新たに調査研究を行った。従来華僑経済的、宗教的そして親族的ネットワークだけではなく、地域の連携を通して、特に長崎冬の最大の風物詩であるランタンフェスティバルの発展に活用された地域横のネットワーク、またそれによって作られた華僑新世代のネットワークについての現地調査も行った。

さらに越境する伝統文化の受容・変容という視点から、従来日本に伝えた中国芸能・音

楽と新移民による新たに伝播された音楽と比較し、民族文化伝播のダイナミズムと越境やエスニック・アイデンティティの表出として、日本における中国芸能と音楽空間が創りだされている状況を調査し考察した。

それに関連して比較学、民族音楽の視点からこれまで中国の伝統音楽「南音」歴史源流、音楽構成、及び演奏形態と楽器、南音の伝承形態、南音の民俗とその社会的な役割、及び海外華人と南音について明らかにしたが、その比較調査として、日本の伝統音楽特に日本近代琵琶の伝承について文献調査と聞き取り調査も行った。近代琵琶の前身となる盲僧琵琶は中国に源流とされるが、近代琵琶は大正時代から昭和時代の前期にかけてその全盛が呈されていた。音楽や芸能の伝承に大きな役割を果たしているのは、江戸時代に形成されていた遊戯文化の影響や家元制であるが、それは現在日本での中国音楽二胡の伝播・伝承にも役割をはたしているのは研究調査を通して明らかになっている。

(3) これまで研究してきた華僑社会と地域文化と対照に、文化を活用する地域観光に関連する調査として、中国の孔子祭の創出過程、台湾の老街と日本四国の高松のまちづくりについて調査を行った。行政主導型の観光開発の好例として中国の孔子祭だけではなく、行政のイニシアティブで台湾各地における老街の復興と活性化運動も行われ、観光資源として活用されている。これはこれから日本の地域観光に参考例として提供できる。

4. 研究成果

これまでの研究調査に基づき、研究成果として明らかになったことを下記のようにまとめることができる

(1) ロンドンのチャイナタウンとチャイニーズコミュニティについて：

イギリスでは歴史上にアメリカや東南アジアのような中国系移民の大量移住が見られなかった。華人がイギリスへ移住したのは1800年代に遡ることができるが、戦前までその数は多くなかった。それはアメリカやカナダと異なり、従来イギリスは移民国家ではなく、その移民政策は植民地政策の延長線上に位置づけられて、国内労働力政策との関連で様々な政策内容が決定されてきた。移民政策は過去の英連邦諸国に対して他国よりも優先的に移民受入れを行っており、またその優先的な受入れは、英連邦諸国への過去の植民地統治が決して誤ったものではなかったという正当化に根ざしたもとなっている。1959年代より中国系移民として多くの香港人がイギリス

へ移住できるのもそのような経緯がある。当時旧イギリス植民地であった香港は高度発展期にあり、植民地政府は香港の新界地域の開発権を得るために、「土地を用いてイギリスでの居住資格を交換する」という案を打ち出した。そこで数多くの新界の農夫がイギリスへ移住することになった。当時の彼らは教育水準や英語能力が低く、職業の約8割がテークアウェイ・ショップ（持ち帰り店）のような中国料理に関わる飲食業であった。そして、同業競争を回避するという理由もあり、その店が各地域に散々するようになっていた。ゆえに北米などの地域と異なり、イギリスにおける中国系移民は最初から固まって一つの地域に集中することはなかった。

ロンドンのチャイナタウンは現在のようになったのは1980年代頃である。1970年代になってから、多くの中華料理店はソーホーの地域に集中するようになったが、新たに整備し、正式にチャイナタウンになったのは、1985年頃である。1978年にチャイナタウンにおけるはじめての商業組織である「倫敦華埠街坊会」（後に「倫敦街坊商会」と改称）が設立された。それによってはじめてチャイナタウンの代表として政府と直接に対話することができるようになり、チャイナタウンも次第に政府に認めもらうようになった。以来チャイナタウンの景観づくりが「倫敦華埠街坊会」及びロンドン市政府、そしてウェストミンスター地域政府のサポートによって進められてきた。1985年チャイナタウンの門とあずまやが完成され、チャイナタウンのメイン道路にある2つの石獅子は中国政府から送られてきたものである。以来ロンドンの中心にあるチャイナタウンはナショナルギャラリーや王宮、トラファルガー広場などの名所に近いというよい立地から、観光地として知られるようになり、現在地元の人々や観光客で賑わっている。チャイナタウンの建設の背景には華人が経済的、政治的な台頭によって移住国での社会的、文化的地位が上昇すること、ロンドンという都市自体の文化観光開発などがある。

またチャイナタウンにおける春節祭は「華埠街会」ができてから開始されたが、当時の春節祭は主にチャイナタウンの中で行われ、屋台を開き、小さい舞台を設置する。歌が好きな人は舞台上で歌うことができるような小規模な祭りであった。1985年中華門が建設されてから、チャイナタウンをもっと多くの人に知ってもらうため、春節祭をレスター広場でも開催するようになっていた。2001年当時新しくなったロンドン市長がチャイナタウンへ

の訪問をきっかけに、2002年より春節祭はトラファルガー広場で行うことになった。これはロンドンのトラファルガーで行う初めてのマイノリティーグループのイベントとなった。2003年のイベントが主にロンドンに在住する中国音楽のグループや華人の芸能団体によって行われてきたが、2004年より本土から中国の芸術団がくるようになり、イベントの規模は年々拡大されている。2008年に中国オリンピックの際に、春節のイベントにはさらに充実したプログラムが提供され、1日だけでもレスター広場やトラファルガー広場、そしてチャイナタウンなどのイベントへの動員客は30万人ほど達していた。チャイナタウンやトラファルガー広場及びレスター広場のイベントのほか、ロンドンにある大きい博物館の中でも春節祭のイベントが行われていた。2011年の春節祭に中国国家僑務辦公室は主任自ら引率した中国一流な芸術者により構成された代表団を派遣した。春節祭の参加者は50万人程に達した。春節祭の実行委員会はロンドン市政府、ウェストミンスター地方政府及び各協賛支援団体の代表から構成されるが、実働部隊はチャイナタウン「華埠商会」及び約150人程のボランティアである。資金はロンドン市政府、ウェストミンスター地方政府、中国政府及びキャセイパシフィック航空など様々な協賛団体などから提供される。2012年にロンドンでオリンピックが開催されるが、前回のオリンピックは中国であったため、この年の春節祭は中国に関連するイベントはより多く企画されている。春節祭のイベントも2010年よりすでに企画し準備されている。

ロンドンのチャイナタウンの春節祭はヨーロッパではもっとも規模が大きい中国系移民のイベントと見られるが、その背景に近年中国政治的・経済的な台頭に大いに関連している。中華街という空間と祭の作りには、イギリスと中国政府の働きかけと支援が大きな役割を果たしているのが見られ、2003年より拡大されたこの春節祭は、中国系移民と地域人との交流のための祝祭であり、政府間の文化交流の慣例行事となっている。移民のアイデンティティも従来の香港人から中国人或いはチャイニーズ・ブリッティッシュなどのように変化し、中国の国際的な地位は移民社会に与える影響が大きいことが伺える。

イギリスに約25万人の中国系移民がいるが、ロンドンに8万人以上超えている。その半数以上香港からの移民である。中国改革開放後、1980年代以降留学生を皮切りに、大陸からの移住者が大幅に増加した。その職業も従来の飲食業から企業、銀行、病院、研究機関など

多様化する領域へ変化している。中国系移民によって様々な組織や団体が組織されているが、チャイニーズ・コミュニティ・センターはその1つである。ロンドンだけでも20個以上のチャイニーズ・コミュニティ・センターがあるが、その多くは1980年代にサッチャー政府の移民政策が改革された後、政府側からの援助金を得て設立されたのである。1997年の香港返還を前にして、1980年代から香港政庁がコミュニティ関連の仕事から手を引きロンドン以外の事務所を閉鎖していったことが、香港政庁の機能の一部を引き継ぐチャイニーズ・コミュニティ・センターのような団体を促進する一因となった。これまでこれらのチャイニーズ・コミュニティ・センターは中国系移民の生活に最も入り込んで、各地区の中国系住民のニーズに合うような、社会的、教育的、文化的、及び福祉のサービスを提供し、中国系住民の生活の質を高め、地区と他の地方当局と提携し中国系住民をより広いコミュニティに統合する、そして中国系移民の間及び地域のネットワーク作りなどに大きな役割を果たしてきた。イスリントン・チャイニーズ・アソシエーションは唯一ボランティア・サービスのイギリス女王賞 (the Queen's Award for Voluntary Service) を獲得したチャイニーズ・コミュニティ・センターであるが、その活動にアドバイスサービスや中国語補習校の運営、老人会 (その中心的活動は老人向け昼食会の開催)、婦人会、音楽教室、ダンス教室、気功や太極拳教室、サマースクールなどだけでなく、地域政府と連携し、華人団体の代表として選挙や政策制定などの政治活動にも積極的に取り組んでいる。中国系新移民はこれらのコミュニティ・センターへの参入が少ないものの、音楽やダンス、太極拳、中国語など数々の文化活動の主役 (教師) になる者は殆ど大陸の出身者であることから、コミュニティ・センターは彼らが1つの活動する場であり、従来の移民との交流やネットワークづくりの場となっていると考えられる。

中国系従来の移民の出身地は殆ど香港であって、移民の歴史や職業の事柄により従来地縁・血縁・業縁に基づく組織は北米や東南アジアそして日本と比べると、それほど強い役割を果たしてなかった。1980年代より各種の同郷組織が再建し、もしくは新たに作られ、特に中国統一促進会、英国華人青年聯会などのような組織も組織されたが、中国政治的・経済的な台頭によって、その大きな役割は中国本土との関係を作り維持するための文化的紐帯として果たしている。これらの調査に基づいて、研究成果として、2011年度に出版す

る本に納める予定である。

(2) 日本華僑華人についての継続調査として、九州や函館華僑社会のネットワークについて：九州と函館の華僑は主に福建省特に福州や福清地域の出身者が多い。華僑の親族関係からみると、中国伝統的な家族形態、いわゆる宗族のような直系親族が少ないが、結婚によって姻戚関係が強く機能するようになっていた。つまり、華僑の家族間に姻戚関係が結ばれていることが大きな特徴となっている。そして、従来姻戚関係が相互扶助の絆として大きな役割をはたし、これらの関係は華僑の社会的ネットワークの繋がりとして形成された。しかし、現在これらの伝統的な社会的ネットワークは大きく変容していった。世代の交替や日本社会化によって姻戚関係の繋がりが弱くなることもあれば、長崎のように地域社会に根付いた地縁関係の役割が強くなっていくこともある。そして、函館の王系の会のような新たに構築されていく血縁関係の繋がりも見られる。つまり、社会を維持するネットワークなどはかなり多様化になっており、特に地域と連携する商業組織及び地域化した中国文化の祭祀活動は、エスニシティとアイデンティティの維持や上位社会への社会化に重要な役割を果たしている。彼らのネットワークは中国という符号を文化資本とした、地域社会と連携する文化創出活動を通して作り上げられたものである。彼らが中国人でも日本人でもなく、長崎華僑、横浜華僑、神戸華僑というアイデンティティを強調するように、地域は華僑文化的、社会的、経済的ネットワークの繋がりが根を下ろす重要な土壌であることを示唆する。これはイギリスの華人社会との大きな違いである。この研究は単にもっと日本華僑社会を理解するための鍵になるだけでなく、従来及びこれからの華僑ネットワークの研究に新しい視点を示していた。

中国民族音楽の新たな伝播について越境する伝統文化の受容・変容という視点から、引き続き日本に興った中国民族楽器二胡のブームについて調査を行った。二胡は中国の民族楽器であるが、新華僑によって日本に持たされて以来、その主体は完全に日本人に変わってしまい、日本の大衆音楽の一つとして捉えることもできる。二胡の伝播と受容は歴史上中国音楽である明清楽の日本人社会での受容と共通性を持っており、越境する音楽文化の伝播と変容の一つ事例として興味が深い。華僑の芸能・音楽の伝播には、文化的距離、大衆の受容性、時代の空気、受け入れ主体の存在 (伝播のコア) をあげることがで

きる。その結果を「日本における中国芸能・音楽の空間」として発表した。

さらにその比較調査として日本の伝統音楽近代日本琵琶について文献調査及び聞き取り調査を行った。日本近代琵琶は中国に源流とする盲僧琵琶がその前身であり、大正時代から昭和時代の前期にかけてその全盛が呈されていた。その伝承の背景には江戸時代に形成されていた遊戯文化の影響や家元制の役割が大きい。調査結果の一部を「日本近代琵琶の盛衰に関する考察」としてまとめた。(3)日本における中国文化の受容と生成と関連し、地域文化を活用する地域観光の調査を通して、地域観光問題を考える際、歴史の文脈や、観光が各地の土着文化に与える影響、地域文化と異文化との相互作用、及び文化の受容と変容などの問題を無視してはならないことを改めて認識した。そしてこれまで中華街における祭祀や芸能文化の再編と地域観光に関する研究を踏まえた上、中国の孔子祭の創出過程、台湾淡水のまちづくり及び日本の高松、別府、長崎などの事例の比較研究を行い、研究結果の一部は「観光研究における文化論の視点」と「賑わいの文化創造」として発表した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 10 件)

- ①王 維「書評」《跨国移动的困境：美国华日两族的族群关系，1885-1937》”，王秀惠『华人研究国际学报 The International Journal of Diasporic Chinese Studies (IJDCS)』 Issue: 2、(査読無)2010、pp133-136
- ②王 維“Localized Culture and Japan, s Tourism: A Case Study of Alien Culture and Traditional Culture” *Turism and Globalization Perspective on East Asian Societies*. Edited by Han min and GRABURN Nelson, (査読有) 2010、pp75-89.
- ③王 維「喜望峰に立つ中国人系新移民」『フィールドプラス』(査読無) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2010、pp20-21.
- ④王 維「賑わいの文化創造」香川大学経済学部ツーリズム研究会『地域観光の文化と戦略』(査読無) 2010、pp183-213.
- ⑤王 維「日本における中国芸能と音楽の空間」鈴木正崇編『東アジアの民衆文化と祝祭空間』慶応大学東アジア研究所(査読無)、2009、pp29-66
- ⑥王 維「日本近代琵琶の盛衰に関する考察」『香川大学経済論叢』(査読無)82-1・2、2009、pp3-46.
- ⑦王 維「観光研究における文化論の視点」香川大学経済学部ツーリズム研究会『観光学へのアプローチ』、(査読無)2009、pp171-215
- ⑧廖 赤陽、王 維「長崎貿易ネットワークと新族群性—地方主導中的伝統創造」『錯綜于市場、社会与国家之間—東亜口岸都市的華裔与巫州区域ネットワーク』シンガポール南洋理工大学、査読無、2008、pp233-255
- ⑨王 維「東ヨーロッパにおける中国新移民の流れ—チェコの事例を通して」『華僑華人研究』第5号、日本華僑華人学会、査読無、2008、pp231-241
- ⑩王 維「街の魅力を構成する次元に関する質的考察」香川大学経済学部ツーリズム研究会『新しい観光の可能性』査読無、2008、pp195-220
[学会発表] (計 5 件)
- ①王 維”Localized Culture and Japan’s Tourism: A Case Study on the Alien Culture and Traditional Culture” *The 16th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES)*、Institute of Anthropological and Ethnological Sciences, Chinese Academy of Social Sciences. 中国雲南民族大学、2009. 07. 29
- ②王 維 “New Chinese Migrants and The Formation of A New Chinatown in Ikebukuro of Tokyo”、*Rising Dragons, Soaring Bananas International Conference* .New Zealand Chinese Association Auckland Inc. Auckland, New Zealand、2009. 07. 15
- ③王 維「日本華僑的伝統和文化」台湾政治大学民族系における講演、台湾政治大学民族系、台湾政治大学、2009. 03. 13
- ④王 維 “Tourist Anthropology in Japan: A Case Study on Nagasaki and Kotohira” . “2nd Kagawa University-Chiang Mai University Academic Symposium (2008)” 2008. 10. 14
- ⑤王 維「日本における中国芸能と音楽の空間」、『東アジアの民衆文化と祝祭空間』慶応大学東アジア研究所公開講座、慶応大学東アジア研究所、慶応大学、2008. 06. 18

6. 研究組織

(1) 研究代表者

王 維 (WANG WEI)
香川大学・経済学部・教授
研究者番号：10322546